

第1回島根県ヘルスケア産業推進協議会 委員からの主な意見

- 島根には、機能性の高い農産品が多くあるが、生産が追いつかずに注文に応えられないという事例があった。農商工連携を成功させるには農業を活性化させる必要がある。農商工連携を活性化させて、そこに医が加わる形でヘルスケアに結びつけるのが良い。
- えごまブームが全国で起きているが、生産が追いついていない。6次産業化も含め、生産体制を強化していく必要がある。
- 漢方薬に使われる甘草などの薬用植物の生産が不足している。湿度の高い山陰であってもハウスなどを活用することで薬用植物の栽培をすれば産業化する可能性があると思う。
- 認知症には、農業をして健康につなげる園芸療法が有効。また、認知症などの予防に集まれるところをつくる必要がある。
- 5年後、10年度の将来を見据えて、若者が入ってくる産業をつくる必要がある。島根県の場合は、農業や介護など若い人が入ってくる産業をつくって、若い人と高齢者が一緒になって長い期間健康に働くというのが良い。
- 地域包括ケアを進める中で、在宅看護などのためには介護士が不足している実態がある。介護人材を多く出すというのも一つの産業ではないかと思う。
- 自治体からビッグデータを提供してもらうことで、地域の課題が抽出され、その解決に向けた取組が活発になればコミュニティの活性化につながると思うので、個人情報取り扱いに注意が必要ではあるが、自治体にはビッグデータの分析とその情報開示を積極的にしてもらいたい。
- インフルエンザなどの感染症予防対策として、空気清浄機によるテストデータを示すことができれば普及するのではないか。予防医学としては重要な問題と考えている。
- 病院の機能評価のように、高齢者施設の質の評価ツールをITで開発できれば、競争が促進され、施設が増え、産業につながっていくのではないかと思う。
- コミュニティをつくるには、孤独な高齢者を家の中から外に出してもらうことを考える必要がある。公園を核にしたコミュニティづくりができないか考えている。
- お年寄りの在宅の服薬管理が課題。健康食品を大量に購入する高齢者が問題。確固たる根拠に基づいた健康食品であるか、という問題がある。
- しっかり噛める歯を持つ人には、認知症が少ないのではないか。これを調べて見ると良い。また、オーラルフレイル（歯・口の機能の虚弱）になると要介護になる。オーラルフレイルを遅らせることで要介護を遅らせることができる。

- ヘルスケアビジネスのチャンスはあるが、成果を出すためには鍵となるプロデュースをする人が必要である。ビジネスチャンスはあり、これから伸ばしていただきたいと思います。
- 島根県で特徴的なヘルスケアビジネスをするという意味では、その事業化のターゲットは都会であり、外貨を稼ぐことが必要である。島根県にしかない何かを生み出すことはかなり難しいことであり、各自治体が同じような取組をしている中では、口コミで島根県は良いと言ってもらえるサポーターが必要である。
- 島根大学の5学部の専門性を生かせば、ヘルスケアに寄与していけるだろうと思う。窓口を一本化して人材育成、産業創出に取り組んでいく。
- この協議会を通じて、産業の面だけでなく、医療保険の面でも効果が出ることを期待している。
- 従業員は会社にとって貴重な資源であり、健康保険組合にデータヘルス計画の実行等が求められていることから、企業の健康経営にも力点を置いてもらいたい。